

第4回KSBL秋季大会・松本しゅうじ旗争奪 規則

- ① この大会の競技規則は当該年度「公認野球規則」及び「全日本軟式野球連盟競技者必携・学童野球の関する事項及び下記細則により試合を行う。大会特別規定を設け、その規定を優先とする。
 - ② 試合は7回とし、**80分**を超えれば新しいイニングには入らない。**(決勝戦も時間制を採用する)**決められた回数・時間が経過して勝敗の決しない場合は**抽選とする。決勝戦のみ特別ルールで勝敗を決める。**
 - ③ 特別ルールは**1イニングのみ行う**(無死満塁で打順は監督の選択とする。尚、同点の場合は抽選とする)
 - ④ ベンチにはチーム責任者1名、監督(30番)1名、コーチ(29,28番)2名、スコアラーとし**最大5名**までとする。監督・コーチは、ユニフォームを着用し、それ以外の服装は認めない。
* 本部判断で給水係(救護係母親)を1名認める。給水係(救護係母親)のユニフォーム着用義務は無い。
 - ⑤ ベンチは組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。試合会場を提供したチームは、1塁側もしくは3塁側を選択できることとする。
 - ⑥ 大会試合球は連盟公認J球でナガセケンコー球を使用する。
 - ⑦ バットは連盟公認(JSBB)のみ使用できる。チームで安全を確認済であれば木製バットも認める。
 - ⑧ 捕手は必ず連盟公認のマスク、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファールカップを着用すること。
 - ⑨ 打者、走者、ベースコーチ、次打者は、必ずヘルメットを着用すること。
 - ⑩ 監督・コーチは時間短縮のためタイムを求め、球審が認めたときは、選手に指示を与える。選手交代も同様に時間短縮につとめなければならない。なお抗議できるのは監督のみとする。但ルールの確認行為のみとする。どんな理由があろうと相手チームのプレイヤー及び審判員に対し、悪口・暴言を吐く事を禁ずる。*** 攻撃の時間が長引いた時は本部又は審判員の判断により休息タイムを設ける(休息タイム中はタイマーを停止する)**
 - ⑪ 試合におけるトラブルなどは球審または審判員の決定に従うこと。
 - ⑫ その他、運営面におけるトラブル等は本部役員または担当役員の決定に従うこと。
 - ⑬ グラウンドで発生した負傷は、主催者では一切のその責任は持たない。各チームで責任をもって対応すること。
 - ⑭ 雨天の際の可否判断はそれぞれの担当役員から連絡するものとする。
 - ⑮ 降雨、落雷等により試合を中止した場合、4回終了時で成立する。【注】会長又は執行部の判断により継続試合とする場合がある。
 - ⑯ 得点差によるコールドゲームを採用する。3回以上10点差、5回以上7点差とする(決勝戦も適用する)
 - ⑰ シートノックは4分間とする。但し1、2回戦のノックは原則なしとする。
 - ⑱ チームは試合開始時間の45分前に本部席にメンバー表4通を提出し、先攻後攻のトスを行なう。
 - ⑲ **準決勝戦、決勝戦では投手の球数制限を80球とする。試合中に80球に達した場合はその打者の打撃が完了するまで認める。牽制球、投球練習球、反則投球は投球数には含まない。**過失により制限された球数を超えた場合、その打者の打撃完了まで認める。尚、ペナルティーは無い。【注】参照
- ※ **KSBL新型コロナウイルスガイドラインを参照して試合を行ってください。**

【注】 投球数のカウントは本部が行う。チームがカウントした投球数と本部がカウントした投球数とに差異があったとしても、本部の投球数カウントが有効である。差異に対しての異議は唱えることは一切出来ない。但し、試合中に本部での管理の不具合等により、投球数のカウントに支障がおきた場合は、チームがカウントしていた、投球数を参考にして本部が投球数を確定する。